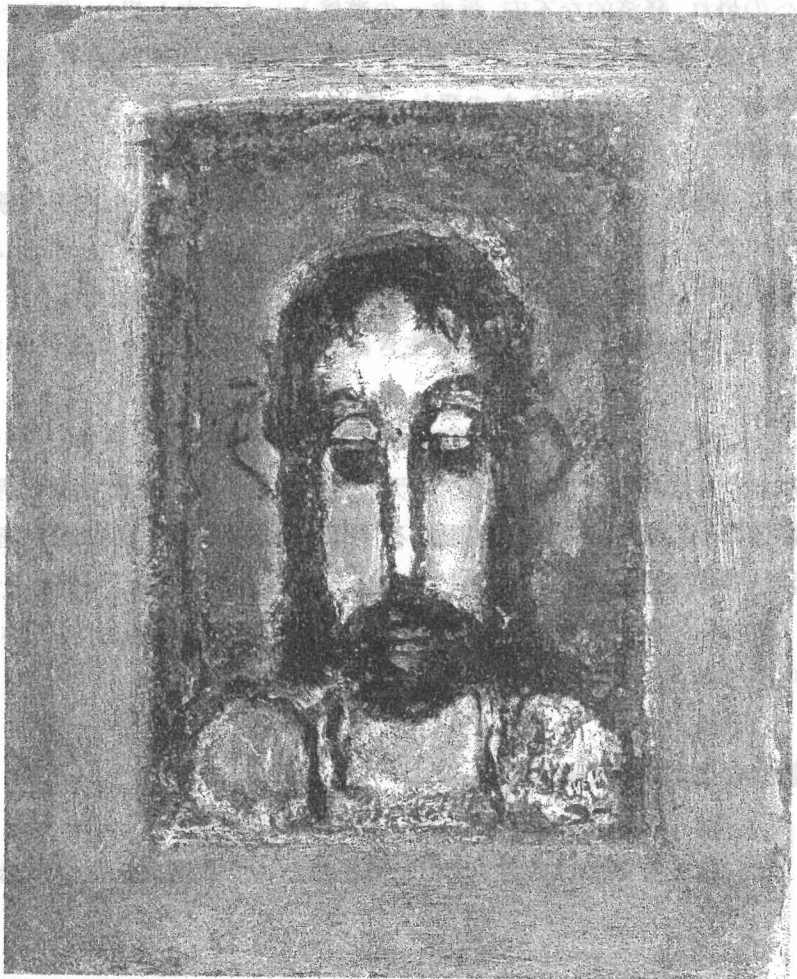


2003. 4

霊性センターニュース

176号



〒611 京都府宇治市本幡御蔵山39-12

宇治聖テレジア修道院(黙想)

TEL 0774-32-7016

FAX 0774-32-7457

## 「恐れと愛の狭間で」

カルメル会 中川 博道

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。

(ヨハネ 20:19)

先日、ある講話の中で「愛の反対は、『恐れ』です。」という言葉聞き、はっとさせられました。現代は『恐れ』の時代』ともいわれます。戦争の恐怖、テロへの恐れ、経済的な不安、将来への漠然とした不安と恐れ、周りへの恐れ、そして自分への恐れ etc...。聖書の中にも「恐れ」について 500 回以上もの記述があります。為政者たちの恐れ、群衆の恐れ、弟子たちの恐れ。マリア様やザカリア、そしてイエスご自身が恐れの中で祈ります。

人は「恐れ」を持つとき、心に「流れているもの」が止まる経験をするように思います。そして閉じこもって、警戒し、疑い、苛立ち、憎しみを増し、様々な攻撃を仕掛けます。私は「愛の反対は憎しみ」と単純に考えていました。しかし、何かを恐れることが、愛を生きにくくしていることに気付かされます。

「愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。」(1ヨハネ 4:18)  
これはヨハネの体験です。アヴィラの聖テレジアは、恐れで固く閉ざされていた自分の心の真ん中に、突然現れる「復活の主イエス」の体験を語っています。恐れの中で閉ざされ、孤立してしまう私たちのうちに、「愛」そのものである「いのちの主」が入ってきて、恐れから私たちを解放してくださるように心から願う信仰が必要です。

教会の信仰の核心には、

「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない」(マルコ 6:50)

と力強く呼びかける主・死の恐怖を味わって復活された主がおられます。

## 2003年 カルメル会 東京・上野毛聖テレジア修道院(黙想)

### 黙想会年間スケジュール

#### 1. 信徒と奉獻生活者のための個人指導黙想会

スタッフ：星野正道師 (カルメル会)、原 造修士 (カルメル会)  
Sr.中川享子 (ケベックカリタス会)

- (1) 6月 7日 (土) 16時～16日 (月) 朝食
  - (2) 10月20日 (月) 18時～29日 (水) 朝食
- 全期間参加の方優先ですが、二泊からの部分参加も可能

#### 2. 奉獻生活者のための黙想会

- (1) 7月30日 (水) 16時～ 8月 8日 (金) 朝食 渡辺幹夫師
- (2) 8月12日 (火) 16時～ 8月21日 (木) 朝食 星野正道師
- (3) 12月26日 (金) 16時～翌年1月4日 (日) 朝食 チプリアーノ師

#### 3. 聖書深読黙想会

次の各土曜日の夕食から日曜日の16時30分まで

- (1) 4月12日 (土) ～13日 (日) 奥村一郎師
- (2) 6月28日 (土) ～29日 (日) 九里 彰師
- (3) 9月27日 (土) ～28日 (日) 星野正道師
- (4) 11月29日 (土) ～30日 (日) 九里 彰師

2004年

- (5) 2月21日 (土) ～22日 (日) 星野正道師
- (6) 3月 6日 (土) ～ 7日 (日) 奥村一郎師

#### 4. ウェンズディ・リトリート

スタッフ：星野正道師 (講話、ミサ、etc.)

テーマ：「み手の中ですべては変わる」

A

B

- |                |                |         |
|----------------|----------------|---------|
| (1) 4月23日 (水)  | (1) 5月21日 (水)  | 10時～16時 |
| (2) 6月 4日 (水)  | (2) 7月 2日 (水)  | 〃       |
| (3) 9月 3日 (水)  | (3) 10月 1日 (水) | 〃       |
| (4) 11月 5日 (水) | (4) 12月 3日 (水) | 〃       |
| (5) 2月18日 (水)  | (5) 3月 3日 (水)  | 〃       |

## 5. 奉獻生活者と信徒のための黙想会

2004年1月19日(月)16時～1月28日(水)朝食 星野正道師

## 6. 特別黙想会

最初の日の夕食をすませてからの集合。どなたでも参加できます。

- (1) 7月 7日(月)20時～9日(水)15時 新井延和師
- (2) 11月18日(火)20時～20日(木)15時 //
- (3) 12月 5日(金)20時～7日(日)15時 Sr.伊従信子

## 7. 大祭日のミサにあずかるために

チェックイン午後3時から。(講話なし)チェックアウト午前10時まで

- (1) クリスマス 12月24日(水)～25(木)朝食
- (2) 復活祭 2004年4月11日(土)～12(日)朝食

## 8. ユース・リトリート

若者のための黙想会

11月22日(土)夕食～11月23日(日)16時 大瀬高司師

## 9. 男子青年黙想会

スタッフ: カルメル会士

- (1) 5月16日(金)20時～18日(日)16時
- (2) 11月 7日(金)20時～9日(日)16時

## 10. 男子召命黙想会

スタッフ: カルメル会士

10月3日(金)20時～5日(日)16時 (修道生活体験あり)

その他、皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

(お問合せ、お申込み) カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355(黙想) FAX. 03-3704-1764

上記が通じない場合は、修道院 [TEL. 03-3704-2171](tel:03-3704-2171) へお願い致します。

ただし、黙想関係の受付窓口を一つにしておりますので、電話でのお問い合わせは、なるべく午前9時～午後5時までの間にお願い致します。

尚、受付が休みになっている際は、すぐにお返事ができない場合もあります。その際は、恐れ入りますが、後日改めてお問い合わせ下さいませようお願い致します。

2003年

# 黙想会案内

## 【聖書深読黙想会】

(土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

1月11日(土)~12日(日)	奥村一郎神父
2月15日(土)~16日(日)	中川博道神父
3月 8日(土)~ 9日(日)	星野正道神父
4月26日(土)~27日(日)	奥村一郎神父
5月17日(土)~18日(日)	新井延和神父
7月19日(土)~20日(日)	星野正道神父
9月20日(土)~21日(日)	九里 彰神父
10月18日(土)~19日(日)	中川博道神父
11月22日(土)~23日(日)	新井延和神父
12月13日(土)~14日(日)	大瀬高司神父

## 【青年のための黙想】

### ・男性のため

5月23日(金)~25日(日)	九里 彰神父
11月 7日(金)~ 9日(日)	大瀬高司神父

(金曜日午後8:00一夕食すませてから)

### ・女性のため

7月5日(土)~6日(日)	星野正道神父・カルメル宣教会
12月7日(日)午前10時~午後5時	カルメル宣教会

## 【一般のための黙想】

### ・水曜の黙想

(午前10時から午後4時まで)

1月 8日(水) 一年の初めに	アロイジオ神父
2月12日(水) 祈り	シスターベアトリス
4月23日(水) 復活	新井延和神父
5月14日(水) 聖母マリアとともに	奥村一郎神父
6月18日(水) 聖霊	長岡幸一神父
9月17日(水) 十字架の神秘	新井延和神父
10月 8日(水) アビラの聖テレジア	新井延和神父
11月12日(水) 愛と死	奥村一郎神父

### ・聖テレーズの黙想

10月 4日(土)午後5時~5日(日)午後4時	伊従信子氏
-------------------------	-------

### ・四旬節の黙想

3月15日(土)~16日(日)	北村善朗神父
-----------------	--------

### ・待降節の黙想

11月29日(土)~30日(日)	星野正道神父
------------------	--------

## 【特別黙想】・英語による黙想会 (部分参加も可能です。)

4月29日(火)~5月3日(土)	シスターベアトリス・カルメル宣教会
------------------	-------------------

## 【奉獻生活者の黙想】

(午後5時集合/午前9時解散)

7月7日(月)~7月16日(水)	星野正道神父
8月6日(水)~8月15日(金)	中川博道神父

## 【申し込み】

- ・はがき 又は FAXにて、「氏名・住所・電話番号・(所属修道会名)」を書いてお申し込みください。
- ・但し、一般の「一日黙想」は電話での受付もいたしません。
- ・また個人、グループの黙想もできますし、個人、グループが企画した黙想のための場所としてもご利用ください。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
Tel 0774-32-7016 / Fax 32-7457

# 祈り

## カルメルの靈性に基づいて

月	日	テーマ
2月	24日(月)	祈りとはなにか
3月	3日(月)	イエスが祈ったように祈りましょう
	17日(月)	罪によって傷ついている
4月	7日(月)	祈りとは神との親しさ
	21日(月)	復活された方と生きる
5月	5日(月)	マリアのように祈る
	19日(月)	祈るための人間性の大切さ
6月	2日(月)	聖霊によって祈る
	16日(月)	祈り三位一体的な経験

時間：2：00～4：00

どなたでも参加できます。

費用：無料

担当：カルメル宣教修道女会 シスターベアトリス

場所：宇治カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

# 「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

## ～都会の中の一泊静修～

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28:20)といわれました。共にいるイエス様とのひとときを、都会の真中で過ごしてみたいはいかがでしょうか。

- |     |           |              |             |
|-----|-----------|--------------|-------------|
| 第1回 | 3月21日(金)  | 「神と共に生きる」    | 松田浩一神父・在俗者会 |
| 第2回 | 4月22日(火)  | 「聖マルコに聞く(1)」 | 松田浩一神父・在俗者会 |
| 第3回 | 5月27日(火)  | 「イエスの新しい掟」   | 松田浩一神父・在俗者会 |
| 第4回 | 6月24日(火)  | 「聖マルコに聞く(2)」 | 松田浩一神父・在俗者会 |
| 第5回 | 7月21日(月)  | 「平和」         | 松田浩一神父・在俗者会 |
| 第6回 | 9月15日(月)  | 「聖マルコに聞く(3)」 | 松田浩一神父・在俗者会 |
| 第7回 | 10月13日(月) | 「生命の水」       | 松田浩一神父・在俗者会 |
| 第8回 | 11月24日(月) | 「聖マルコに聞く(4)」 | 松田浩一神父・在俗者会 |

\*時間 いずれも AM10:00~PM4:00

\*場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線、日比野駅下車徒歩5分)  
(駐車場は利用できません。)

\*費用 1,000円

\*持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、昼食の弁当

\*定員 約15名

プログラム	10:00~	祈り
	10:45~	講話[1]
	12:00~12:45	昼食
	12:45~	ゆるしの秘跡
	13:30~	講話[2]
	14:45~	ミサ
	15:30~	茶話会

・また、空いている時間にゆるしの秘跡を受けることができます。

申込みは、下記の住所へハガキか FAX で、氏名・住所・TEL を記載の上、開催日の3日前まで必着のこと。尚、日比野教会の葬式などある場合は中止となりますので、ご了承ください。

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝 4-5-17

カルメル会日比野修道院 一日静修係

FAX 052 [671] 1825、(お問合せ) TEL 052 [671] 1003

## カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：キリストとの出会い

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩5分）  
世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会(TEL 03-3704-2171)

日時：下記の各土曜日 午後2時半開始（講話の後ミサがあります）



- 3月8日（土） 新井延和（カルメル会司祭）  
「パウロとキリストとの出会い」
- 3月15日（土） 中川博道（カルメル会司祭）  
「祈りの中でキリストに出会う」
- 3月22日（土） 松田浩一（カルメル会司祭）  
「会則を生きる—共同体とキリスト」
- 3月29日（土） フランコ・ソットコルノラ神父（生命山カトリック別院）  
「典礼の中でキリストと出会う—土着化の例」
- 4月5日（土） 奈良康明師（駒沢大学前学長）  
「生活の中に『法』を証する」

### 【外部講師の紹介】

フランコ・ソットコルノラ神父

聖ザベリオ宣教会司祭(元管区長)。イタリア、ベルガモ市生まれ。聖ザベリオ神学院で神学、特に典礼学および哲学を教える。ローマ教皇庁典礼省勤務。熊本県玉名に東西宗教交流センター(生命山カトリック別院)を設立し、諸宗教との対話を積極的に行なう。神学、典礼に関する著書や論文多数。

奈良康明師

1929年、千葉県生まれ、東京大学文学部インド哲学梵文学科卒業。カルカッタ大学大学院人文科学研究科(比較言語学科)博士課程終了。インド宗教文化史専攻。文学博士。駒沢大学前学長。編著書：「仏教史I—インド・東南アジア」「仏教の教え」「釈尊との対話」「仏教の心を語る」仏教名言辞典」他多数。





# 聖書深読センターが発足しました!

所長： 奥村一郎 神父  
 事務局：  
 シスター ベアトリス  
 〒611-0002  
 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院(黙想)  
 tel:0774-32-7016  
 fax:0774-38-2543  
 e-mail:[carmis@mbx.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbx.kyoto-inet.or.jp)

新井延和 神父  
 tel:052-671-1558

## ● 聖書深読黙想会

—東京：

カルメル会東京上野毛聖テレジア修道院(黙想)

4月12日(土)~13日(日)	奥村一郎神父
6月28日(土)~29日(日)	九里 彰神父
9月27日(土)~28日(日)	星野正道神父
11月29日(土)~30日(日)	九里 彰神父

(土曜日の夕食から日曜日の16時30分まで)

連絡先：〒158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

tel:03-5706-7355

fax:03-3704-1764

—宇治：

宇治カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

4月26日(土)~27日(日)	奥村一郎神父
5月17日(土)~18日(日)	新井延和神父
7月19日(土)~20日(日)	星野正道神父
9月20日(土)~21日(日)	九里 彰神父
10月18日(土)~19日(日)	中川博道神父
11月22日(土)~23日(日)	新井延和神父
12月13日(土)~14日(日)	大瀬高司神父

(土曜日午後5時集合/日曜日午後4時解散)

連絡先：〒611-0002  
京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
tel:0774-32-7016  
fax:0774-38-2543

一 京都・河原町：  
河原町カトリック会館6階

4月12日(日)	新井延和神父
5月10日(日)	奥村一郎神父
6月14日(日)	北村善朗神父
7月12日(日)	新井延和神父
9月13日(日)	奥村 豊神父
10月11日(土)	奥村一郎神父
11月8日(土)	中川博道神父
12月13日(土)	新井延和神父

時間：午前10時～午後4時  
費用：2500円(昼食代を含む)  
持参品：聖書、筆記具、ノート

連絡先：  
〒604-8006  
京都市中京区河原町三条上ル  
河原町カトリック会館内 聖書委員会  
tel:075-211-3484  
fax:075-211-3910

各回、お申し込みは3日前までに

一 横浜

5月29日(木)～30日(金)	奥村一郎神父	(横浜滝之上 ザビエルセンター)
7月10日(木)～11日(金)	新井延和神父	(不二聖心会黙想の家)
10月9日(木)～10日(金)	九里 彰神父	(横浜滝之上 ザビエルセンター)
11月18日(火)～19日(水)	奥村一郎神父	(宇治カルメル会聖テレジア修道院)

連絡先：

[ザビエルセンター]〒231-0837

神奈川県横浜市中区滝之上1 tel:045-621-1974

[不二聖心会黙想の家]

〒410-1126

静岡県裾野市桃園198 tel:0559-92-2120

[宇治聖テレジア修道院]

〒611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12 tel:0774-32-7456

\*連絡責任者 密本昌俊 tel/fax:045-621-5838

## 一名古屋

- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| 4月26日(土)         | 新井延和神父 (日比野カトリック教会)  |
| 6月7日(土)~8日(日)    | 奥村一郎神父 (宇治カルメル会黙想の家) |
| 9月20日(土)         | 新井延和神父 (日比野カトリック教会)  |
| 11月15日(土)~16日(日) | 奥村一郎神父 (宇治カルメル会黙想の家) |

- \* 毎回、事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。
- \* 原則として、定員は21名とし、申し込みはファックスまたは葉書でお願いします。
- \* コースは、深読法を集中的に行なう1日コースと、全行程を行なう一泊二日コースがあります。
- \* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

連絡先：

〒465-0058

愛知県名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚

tel/fax:052-701-3685

## ●通信深読について

通信深読は現在何箇所かで行なわれているようです。そのうちの2箇所が、新たに参加可能なので紹介します。

### 1. 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は「個人素読」(記号, 全、所感, 近況報告などを書くB5の用紙)を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」,そして解説が冊子になって送られる。

費用: 6ヶ月 17,900円(4月, 7月, 10月, 1月に入れる)

継続 15,950円

講師: 奥村一郎(奇数月) 新井延和(偶数月)

問い合わせ: (163-0278) 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル  
私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部  
電話03-3344-2527(直通)

### 2. 有光さんのグループ

参加者は「素読表」(B5あるいはその半分に記号, 全、および思いを書く。書式は自由)を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用: 1回300円 年10回3千円

住所: (663-8033) 西宮市高木東町16-18-504 有光信子

電話・fax: 0798-67-8132

振込先: 01170-4-59360 聖書深読センター大阪

## ●ミニ深読

グループで、2,3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光またはSr.ベアトリスが指導に行くことも可能です。

問い合わせは、「聖書深読センター」事務局 Sr.ベアトリスまでお願いします。

# 2003年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場 所 カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

日 程

ご指導

- ・ 5月 2日（木）夕食 ～ 5月 5日（日）昼食 アロイジオ神父様
- ・ 6月 24日（火）夕食 ～ 6月 27日（金）昼食 チブリアノ神父様
- ・ 9月 12日（金）夕食 ～ 9月 15日（月）昼食 中川 博道神父様
- ・ 10月 16日（木）夕食 ～ 10月 19日（日）昼食 星野 正道神父様
- ・ 11月 13日（木）夕食 ～ 11月 16日（日）昼食 チブリアノ神父様

☆空きがある場合には、一般の方も参加できます。おたずねください。

☆お申込み、お問い合わせは下記まで

TEL・FAX 03-3892-1378（阿部 昌子）





## … 主の御手のもとに生きる …

エディット・シュタインのメッセージ

—APRIL—

十字架の学問は、単なる理論ではありません。それは、十分に認識された真理であり、生きた真理、本物の真理、かつ効果的な真理です。それは、種のように靈魂の中に蒔かれ、根を降ろし、成長します。そして、靈魂に一つの明確な性質を与え、その行動のすべてを導きます。

十字架は、重く苦しいことすべての象徴です。それは自然性にあまりにも反することですから、十字架を手にとって担うことは、死に向かって歩くことのように思われるほどです。そして、この荷こそ、イエスの弟子が毎日に背負わなければならないものなのです。

十字架に釘づけられた主は、すべての人間がご自分に従うこと、すなわち、私たちが、十字架を担われたお方、そしてその十字架に釘づけられたお方の姿に、形作られるままになることを要求なさいます。

「Scientia Crucis (十字架の学問)」は、人が徹底的に十字架を経験するようになるときに、初めて理解できるものです。私は、最初からそのことを確信していました。そして心から言ったのです。「Ave, crux, spes unica (おお十字架、唯一の希望よ)」と。

キリストは、永遠の生命への道を人間に開くために、ご自分の生命をお渡しになりました。しかし、永遠の生命を得るためには、人間の側からも、自らの地上における生命をお渡ししなければなりません。

積極的にしろ消極的にしろ、十字架上にいかに完全に釘づけられるか、その度合いに応じて、十字架に釘づけられたお方との一致はより深くなり、より豊かに神的生命にあずかせていただけるのです。

もし、靈魂がキリストの生命にあずかりたいなら、キリストと共に十字架上での死を体験しなければなりません。神がお命じになるか、あるいはお許しになるとき、キリストのように、自分を磔刑と苦しみと死に引き渡さなければなりません。

神人であるお方がゲツセマネとゴルゴタにおいて体験されたような暗夜には、いまだかつて、誰ひとりとして入ったことがありません。瀕死の神人が神から見捨てられたという、この計り知れない神秘を説き明かすことは、人間の精神によって探求しようとしても、誰にもできないことです。けれどもイエスは、この極限の苦しみの苦さをご自分の友人たちに味わわせてくださいます。

聖金曜日の闇の中で、光は消えてしまいます。けれども、それは復活の朝、燦然と輝く恵みの太陽として昇ってきます。復活の輝きに達するためには、十字架と苦しみを通らなければなりません。それが、人となられた神の御子の歩まれた道だったのです。

十字架と闇は、天的な光への道です。それこそが、十字架が語る喜びのメッセージなのです。

完全さへの道における進歩は、信仰におけるしっかりとした成長と、切り離すことができないほど固く結ばれています。

私たちが、靈魂の最奥において、より穏やかな静けさのうちに生きるなら、その度合いに応じて、私たちから発して他の人々を私たちの魅力のうちに引き込んでいく輝きもますます強くなります。しかし、それだからこそ、自由で靈的なすべての行為には、最奥の靈魂において調和している個人的特徴の痕跡がしるされているのです。

靈魂は独自性を持つものです。それは、神が靈魂を世におかれたときのままの性質を持っています。この存在が持っている独自の性質は、その全生涯に特別なしるしを刻みつけ、生涯の間に開花していきます。

「真理を告げる」ことによって、人々を改善させることはめったにできません。それは、彼ら自身がより良い者になりたいという真剣な望みを持っており、私たちに批評する権利を認める場合にのみ、役に立ちます。

\* \* \* \* \*

この記事は、ケルン・カルメル会の Sr. マリヤ・アマータ・ナイヤーが編集し、聖女エディット・シュタインの姪に当たるスザンヌ・バツドルフさん（米国カリフォルニア州在住）が英訳された An Edith Stein Daybook: To Live at the Hand of the Lord (Templegate Publishers, Springfield, Illinois, U.S.A.) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

### エディット・シュタイン（十字架の聖テレジア・ベネディクタ） 略歴

1891年10月12日にプレスラウにユダヤ人として生まれ、1922年1月1日にベルクツアーベルンのカトリック教会で洗礼を受けた。フッサールの門下生として、哲学、女子教育の分野で活躍した後、1933年10月14日にケルンの跣足カルメル会に入会、十字架のテレジア・ベネディクタの名を受ける。1938年末、ナチの迫害を逃れてオランダのエヒト・カルメル会修道院に移るが、1942年8月2日、ナチに逮捕され、同年8月9日アウシュビッツにて殉教の死を遂げる。1987年5月1日教皇ヨハネ・パウロ二世により列福、1998年10月11日、同教皇により列聖。1999年10月1日、シエナの聖カタリナ、スウェーデンの聖ビルジッタと共に、ヨーロッパの保護者と宣言される。

(西宮カルメル会 訳・編)

# 断 想 179

ロゴス：愛と死と祈り

死について 死後について なにも わからない  
わかるのは 死という事実が ある という事だけ  
しかも まだ 体験未知数  
わからない と いうことが わかるだけ

救いも おなじ 何が救いなのか わからない  
生きることも おなじ 何が生きる事なのか わからない  
さいわいも おなじ 何がさいわいなのか わからない  
わかることは 今 ここに いる という事だけ

愛することも おなじ 何がほんとうに愛することなのか わからない  
愛されることも おなじ どのように愛される事なのか わからない  
どこまで人に愛されているのか どのように神に愛されているのか わからない  
わかることは、愛されても 愛されなくても  
愛に 生きるしかない という事だけ

ことばがほしい。 ことばは ころの糧だから  
愛にひたつた 愛に焼かれた 愛に包まれた ことばが ほしい

はてしない 宇宙にひろがる 不死の 愛のことばに満ちみちた  
不死身の ひとに 出会いたい

うなだれてばかり  
あゆむべきみちではあるまい  
おまえよ  
かんがえてもみるがいい  
うつくしいひとりの少女が  
こえもなく死んでしまったことは  
大哲人の生きて説くより  
より価すくない出来ごとであろうか

(八木重吉)



## ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』(54)

### 両親の偉大な贈り物

子どもたちは、両親にとってはゲスト（お客）なのです。彼らは、彼らのために創られた場へやって来て、しばらくの間、15年、20年、25年とどまり、また自分の場を創り出すために去って行きます。両親が、「私たちの息子」や「私たちの娘」について語るにせよ、子供たちは、彼らの所有物ではありません。両親は、彼らを人間として知るようにならなければなりません。彼らの長所と弱さを見出し、彼ら自身が自分で決断を下せるようになるまで、彼らを一人前の人間へと導いて行かねばなりません。

両親が子どもたちに与えることのできる最大の贈り物は、彼らが互いに愛し合うことです。その愛を通して、彼らは、子供たちが成長して行くために必要な、すべての不安から開放された場を創り出すのです。その空間の中で、子供たちは、自分自身への信頼を深め、自由に自分の人生の道を選択するようにと励まされるのです。

(0307)

### 自分の子どもの友となること

母親とか父親は、彼らの子どもの友となることができるのでしょうか。多くの子どもは、自由や独立を求めて両親のもとを離れ、時々しかもどってきません。もどると、しばしばまた子どものように感じるので、両親のもとに長くとどまることを望みません。多くの両親は、子供が家を去った後も、子どもの幸せを心配し続けます。子どもが家を訪れると、彼らは、再び子どものことを気遣う親であろうと望むのです。

しかし母親は自分の娘の娘に、父親は自分の息子の息子にもなりうるのです。母親は、自分の息子の娘に、父親は、自分の娘の息子にもなりうるのです。父親と母親は、自分自身の子どもの兄弟姉妹となり、彼らはみな友となりうるのです。そのようなことは滅多に起こりませせんが、そうなった時、それは、新しい日の夜明けのように美しい光景となるのです。

(0326)

九里 彰訳

## 復活節第二主日

我が主よ、我が神よ。

ヨハネ20：19～31

医学校を出たばかりの外科医は、ある晩兵隊の手から銃弾を取り除くために呼び出されました。それも懐中電灯の下でしなければならない手術でした。ちょうど銃弾のようなものによる恐ろしい痛み、その外科医は深く共感しました。手術をするときはいつでも、彼は十字架に釘づけられたイエスの手の痛みを思い浮かべています。

今日の福音の「わが主よ、わが神よ」というトマスの叫びが信仰告白にとどまるものではなかったと、この外科医には思っています。イエスの手の傷がどれほどその身をかきむしり切りさいなむ痛みであったかを見ると、トマスの叫びは驚愕の叫びだったと彼は考えています。その時になって初めてイエスが十字架上でどれほど苦しんでいたかをトマスは完全に理解できたのでした。この外科医は手術で人の手の皮膚のすぐ下を見るとき、常にキリストがその全き手を彼に与えてくださっていることを思い起こします。そして彼はまたトマスと共に叫びます。「わが主よ、我が神よ。」私たちがまたイエスに対する個人的な信仰を持たなければなりません。ひざまずいて「わが主よ、我が神よ」とイエスに呼びかけるそれぞれの理由を見つけねばなりません。

主のために死ぬ覚悟をしていたトマスにとって、主の十字架の苦難と死はどれほど痛ましいものであったことでしょうか。墓に葬られた傷だらけのイエスの身体を、彼は忘れられませんでした。主が友人のところを訪れることなど、彼には信じ難いことでした。イエスに会えなかったたった一人、そのトマスの傷ついた心をイエスはよくご存じでした。ほんのひとかけらの罪すら見ることなく、イエスは私に触れ信じなさいとトマスを差し招きます。すべてを抱きしめる全き愛の前で、トマスには「わが主よ、わが神よ。」としか言えなかったのです。イエスは彼を魅了しました。私たちに求められているのもまたそのように魅了されることなのですから、イエスの証し人であることから私たちを妨げるものは何もありません。

(Beatrice)

復活の主日

たった一つの幸福の泉、それはイエス。

開け放たれた墓、その奇跡をまず目にしたのがマリア・マグダレナであった、と今日の福音は教えています。驚き、これが復活のできごとの最初の経験でした。人生でもう終わりだと思ふような絶望の瞬間、そのときになって初めて私たちの道、命、希望、そしてすべてである主が、私たちの無関心という墓に葬られたことに気づくのでしょう。過去を嘆き、失ったものへの涙を拭い去ろうとするので、墓が空になっていることを見て驚くのです。現実を受け入れ難いものです。それでも、種の芽生えるときを感じ始めています。今や人生は新しい方向に向かって進みはじめました。喜びが私たちの心を満たしてきます。

悲しくて気持ちがふさぎんで仕方がない男性が、精神科の医師に相談に行きました。「先生、私はひとりぼっちでみじめです。どうか助けてください。」そう言う彼に医師は、町のサーカスに出かけて上演されているピエロの演技を見に行つてはと、勧めました。彼は応えました。「そのピエロは私です。」

私たちは物質主義の社会に生きていて、際限なく幸福を追い求めます。快楽を享受すればするほどに、人生に対する満足感、充実感を得られなくなります。私たちは静まることのない海のようなのです。こちらで少しばかりの平和を見つけたかと思うと、また別のところのささやかな幸福に目が移ります。でも、そのどれにも飽きたらず決して満たされることはありません。人々は殺し、欺き、出し抜き、盗みます。すべては欲望ゆえの幸福を追い求めての結果です。しかしキリストが与えてくださる幸福は、周囲のどんな刺激とも何の関係もないのです。

(Beatrice)

## 受難の主日

ギータが一歳半のときに、彼女の母親は亡くなりました。父親が再婚したので、ギータは継母と暮らすようになりました。大きくなるにつれて継母にいじめられるようになったギータは、満足な食事も与えてもらえずに家事や畑仕事を言いつけられます。とうとう結核にかかってしまい、伝染性の病気という理由で継母は彼女を家から追い出していました。放り出されたギータは、外でひどく苦しみました。ある日、道でギータに会った宣教師は、彼女を病院に連れて行ってくれました。入院中にギータは読み書きを教わりました。イエスのこと、とりわけイエスの苦しみにについても知りました。結局、ギータは苦しみのうちに死にましたが、それでもその死に顔はとてもおだやかな笑みをたたえていました。遺体が病院から運び出される時、彼女の枕の下からイエスについて書かれた紙切れが見つかりました。イエスが自分よりも以前に苦しんでおられたのを知ったので、どれほどの苦しみにも耐え忍ぶことができると書きつけていたのです。

聖週間、数百万におよぶ人々の心が、イエスのこの世での最期のときに向けられます。イエスは私たち人間と全く変わることはない方、私たちの足を洗い傷を癒すしもべとなる神、愛する御父のみ旨に聴き従う忠実な神である方です。

一体ほかの何が、この愛の物語にこれ以上の心打つクライマックスを思い描かせられるでしょう。イエスの死は歴史の流れを大いに左右してきました。しかし、わたしたち人類のための受難、その受難の深さは私たちには計り知れないものです。神ご自身が苦しまねばならないどんな価値が、私たちにあるのでしょうか。そうです。神は私たちのためには死ぬに値すると見なしておられます。イエスの屈辱と死に耐え忍ばれたことは、経済的な力や政治的な権力に対する単なる屈服とは異なります。まさに言い表しがたいやり方で表された愛の方法でした。それでも、愛は一方的であるのでしょうか。十字架上での死に及ぶほどまでわたしたちを愛しておられる方を前にして、その側にたたずんで単に見つめるだけでいられるのでしょうか。その愛に応えられないほど私たちは冷たいのでしょうか。いいえ、この愛する御方は、決して見捨てないことを思い出しましょう。イエスは世界を包むその腕をさしのべて待っておられます。

(Beatrice)

四旬節第五主日

一粒の麦が地に落ちなければ、それはただ一粒のままである。

ヨハネ. 12:24

ある宣教師があまり聞かない珍しい病気に罹って、八年間も病んでいました。彼女は どうしてこのような悲運を神がもたらされるのか理解できませんでした。健康を取り戻して宣教の仕事に戻れるようにと、彼女は毎日祈っていました。その祈りへの応えは ついに与えられませんでした。彼女は死ぬ決心をしました。絶望のままに神に叫びました。「もう十分です。あきらめます。私にはどうすることもできません。私を病んだままに なさろうというのなら、それがあなたの務めなのですね。」

彼女は思いの通りに亡くなりました。今日の福音も、もし神に実りをもたらそうと思 うなら自らの意志の死をと説きあかしています。個人的な目標や志を捨て去ることなく、 真の神との交わりを生きることはできません。もし永遠の命を得たいと願うなら、私た ちが神に信頼しその御手に自らをゆだねなければなりません。私たちの意志の死とは、 隣人を心から許し、そして愛し直すことを意味しています。自らの意志を滅ぼすことは 決して生易しいものではありません。けれどもそれは人生にたいせつなこと、私たちに 神がお望みになることにとって重要なことなのです。

死の後には、復活が来ます。命は死を越えて存在するものです。それはあらゆる存在 の動かし難い原則です。私たちは持っているものと失ったものとに執着するでしょうか。 そんなものは放っておけばいいのです。私たちにとって滅ぼすべきものを滅ぼし、与え られる命を豊かに充実させましょう。豊かに人生をすごしましょう。苦しみにあっても イエスが一緒にいてくださるので決して一人ではないのです。

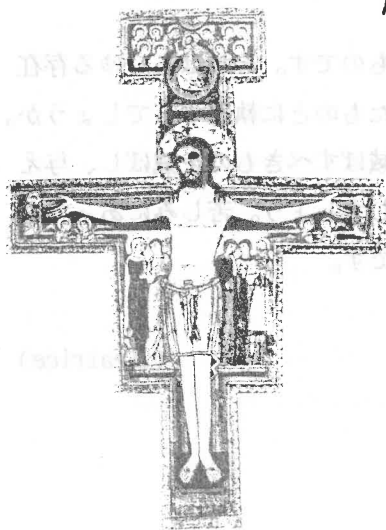
(Beatrice)

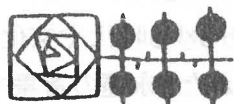
(30)

蛭田 幼一

一九九九年二月十一日

以前にも話題になったことだが、はっきりさせておこう。ニーチェ氏の「神は死んだ」という言い方について。早い話が神は死ぬわけではないな。こう言い直すべきだ。「神を殺してしまった」と。人が神を殺してしまったのだ。現実にも、比喩的な意味でも。もちろん神は復活する。現実にも、比喩的な意味でも。イエズスよ、おまえが神なら十字架から降りて自分を救ってみよ、か。馬鹿げた話だ。これこそ狂気の沙汰だ。





いのちの言葉



## 永遠の命の言葉

主よ、わたしたちはだれのところに行きましょうか。

あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。(ヨハネ6・68)

イエスはご自分のもとに集まってきた群衆に向かい、「神の国」について話されました。日常生活に即したたとえを用い、わかりやすい言葉で語られるイエスの話は、皆の心を強くひきつけました。律法学者のようにではなく、権威ある者として教えられるイエスの言葉に、人々は心打たれていました。また、イエスを捕らえるよう命令された下役たちが戻ってきた時、祭司長やファリサイ派の人々が「なぜ命令通りにしなかったのか」と尋ねると、下役たちは「今まで、あの人のように話した人はいません」と答えました。

ヨハネ福音書には、イエスがニコデモやサマリアの女性などと、すばらしい対話をされたことが記されています。また弟子たちに対しては、イエスは一層深い話をされ、御父や天の国について、たとえを用いずにはっきりと語られました。弟子たちは心打たれ、イエスの言葉を完全には理解できなかつたり、多くを要求されると感じて、ひるむことはありませんでした。

さてイエスが、ご自分の肉を食べさせ、血を飲ませるといふ話をされた時、何人かの弟子たちは「実にひどい話だ」と言いました。イエスは弟子たちがご自分から離れ、ついてこないのをご覧になり、十二使徒に向かって「あなたがたも離れて行きたいか」とお尋ねになります。ペトロは、イエスに初めて会った日からずっと、み言葉に心をひかれ、イエスに従う者となっていたので、皆に代わって、次のように答えました。

主よ、わたしたちはだれのところに行きましょうか。

あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。

ペトロは、イエスの言葉が他の教師の言葉とは違うことを知っていました。地から出る言葉は、この世のものであり、やがて過ぎ去りますが、イエスのみ言葉は天から来るので、霊であり、命です。天から注がれる光、天の力を備える光です。イエスの言葉には、どんな哲学者、政治家、

詩人も語れないような、深みと重みがあります。終わりのない神の命にあふれ、神の命を示し、伝える、「永遠の命の言葉」です。

イエスは復活され、生きておられます。彼の言葉は、過去に語られたものであっても、単なる昔話ではありません。イエスは今も、私たち皆に語られ、あらゆる時代や文化の人々一人ひとりに、語っておられるのです。それは、すべての人に向けられた、永遠の言葉です。

み言葉は、イエスの最も偉大な芸術作品と言えるかも知れません。神のみ言葉ご自身が、人の言葉を用いて語られたのです。どれほどすばらしい話、口調、声だったことでしょう！

聖バジリオ(4世紀の教会の教父)は、こう語っています。「ある日私は、深い眠りから覚めた者のように、福音の真理のすばらしい光を見ました。そして、この世の子らの知恵がいかにもむなしいかを悟りました」と。

またリジューの聖テレジアは、1897年5月9日の手紙に、こう書いています。「霊的な本を読むと、私の貧しい、小さな精神は、すぐに疲れてしまいます。そこで、頭をボーッとさせ、心をからすばかりの、こういった学問的な本を閉じて、聖書を手にします。すると、すべてが光に照らされます。たったひとことが、私の靈魂の前に果てしない視野を開き、完徳は、易しいもののように思われてきます」と。

人の魂は、過ぎ去ることのない、果てしないもののために造られたので、神のみ言葉によって満たされるのです。光、愛、命であるみ言葉は、人間の知性だけでなく、存在のすべてを、内面から照らします。心が乱され、悩む時にも、み言葉は“イエスの平和”を私たちに与えてくれます。苦しみにさいなまれる時も、み言葉は私たちに喜びで満たしてくれます。驚愕したり落胆する時には特に、力を与えてくれます。またみ言葉は、人を真理に導くので、私たちに自由にしてくれます。

主よ、わたしたちはだれのところに行きましょうか。

あなたは永遠の命の言葉を持っておられます。

イエスの言葉が厳し過ぎると感じるられる時にも、私たちは唯一の師として、彼に従いたいと思っています。今月のみ言葉は、それを思い起こさせてくれるでしょう。イエスの言葉に従って、誠実に仕事をしたり、自分のことだけを考えるのではなく、他の人に仕えたり、忠実な結婚生活を送ったり、安楽死を選ばずに臨終の病人を介護する、などの機会があるでしょう。

安易な解決策を取り、妥協するようにと教える人も多くいます。しかし、私たちは、唯一の師・イエスの声に耳を傾け、彼に従うことを望んでいます。イエスこそ真理を語っておられ、彼は「永遠の命の言葉」を持っておられるからです。こうして私たちも、今月のペトロの言葉を繰り返すことができるでしょう。

この四旬節に、私たちはご復活の大祝日を迎える準備をしますが、唯一の師であるイエスに



学び、彼の弟子として生きるよう、本当に努力しましょう。私たちの心にも、み言葉に対する大きな愛が生まれるようにしましょう。教会でみ言葉を聞く時、また、み言葉を読んだり、学んだり、黙想したりする時に、それを大切に受け止めるようにしましょう。

しかし何よりも、私たちはみ言葉を実践するよう招かれています。「み言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になってはいけません」と、聖書に記されている通りです。私たちが毎月、特に一つのみ言葉を選んで生きるようにするのも、そのためです。み言葉が私たちの内に深く入り、私たちを変え、私たちがみ言葉通りに生きられるようになります。イエスの言葉を一つずつ生きるなら、私たちは福音全体を生きることになります。どのみ言葉の中にもイエスのすべてが含まれており、み言葉を通してイエスご自身が私たちの内に来られ、生きてくださるからです。み言葉一つひとつは、復活のイエスの神聖な知恵の一滴のようです。イエスはゆっくりと、私たちの内にあるものを取り除いてゆかれ、ご自分で私たちを満たして下さいます。そして、私たちが生活のあらゆる状況において、イエスのように考え、望み、行動できるようにして下さるのです。

キアラ・ルービック

\*フォコラーレセンター

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL.03-5370-6424 FAX.03-5370-3055

E-mail [focolare@sa.uno.ne.jp](mailto:focolare@sa.uno.ne.jp)



## 諸所の企画についてのご紹介

ノートルダム・ド・ヴィ

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247

Fax(03)3594-2254

\* すべての人のための祈りの集い\*いのちの泉へ カルメルの靈性に学びつつ、カトリック教会のカテキズムの教えに基づいて、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。若い方、洗礼を受けたばかりの方のより基礎的なグループと子供たちのためのグループ（3才～9才まで）もあります。前期は、祈りの基礎である（信仰、希望、愛）がテーマです。

2003年前期

4月26日（土） 信仰のまなざし 十字架の聖ヨハネと共に

5月31日（土） 希望の翼 リジューの聖テレーズと共に

6月28日（土） 愛に生きる 上記とおなじ

講話：伊従信子・片山はるひ（ノートルダム・ド・ヴィ会員）

プログラム：第一部 午後2時から 講話、祈り、お茶&分かち合い  
ミサ（翌・日曜日の典礼）

第二部 午後5時から 夕食、祈り夕べ（8時半頃終了）

参加費：一部のみ200円・二部までは500円

準備の都合上必ず申し込み（一部のみ、二部まで参加を明記）をお願いします。

電話（18時～21時30分）Fax または郵便で、祈りの集いの係まで

\*お子様とご参加の方は、お子様の年齢、性別もお知らせ下さい。

\*申し込みの際、ご希望の方には案内図をお送りします。

### 風 の 家

指 導：井上 洋治 師（東京教区司祭）

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

\*新住所 〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

### 生命山カトリック別院

〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

#### 祈りの集い

4月10日 十字架の道行きの祈り

5月 8日 ロザリオの祈り

6月12日 無名の巡礼者の祈り

7月10日 沈黙の祈り

### 黙想会

個人、グループで、黙想会・研修会などができます。（宿泊10名迄可）

ご相談ください。申し込み。TEL0968-85-3100 FAX0968-85-3186

三位一体の聖体宣教女会 東京修道院

場所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5

TEL. 042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会「聖書で祈る」 指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）対象：一般信徒

2003, 2月22日（土）5:30pm～23（日）4:00pm 了

6月28日（土）5:30pm～29（日）4:00pm

10月25日（土）" 26（日）"

2004. 2月21日（土）" 22（日）"

祈りの集い：神が下さる私の道 指導：星野正道師（カルメル会）

対象：男・女青年信徒

2003, 2月11日（火）10:00am～5:00pm 了

5月18日（日）10:00am～5:00pm

10月19日（日）10:00am～5:00pm

2004, 2月8日（日）" "

黙想会

指導：星野正道師（カルメル会） \*対象、一般信徒

2003, 5月19日（月）10:00am～4:00pm

10月20日（月）10:00am～4:00pm

年の黙想会

指導：星野正道師 \*対象、修道女

2003, 7月23日（水）5:30pm～7月31日 朝食後解散

指導：雨宮師（東京教区司祭）対象：修道女

2003: 12月26日（金）5:30pm～2004, 1月4日 朝食後解散

キリスト教講座 カトリックの教えを学びたい方

日時：毎週木曜日 10:00am～11:30am

十字架の使徒職の集い \*対象：信徒

洗礼よる司祭職に生き、司祭のために祈る

期日：第1グループ 毎月第2金曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

第2グループ 毎月第1木曜日(2:00Pm.～3:30Pm.)

両グループ\*司祭のために聖体礼拝を捧げます(1:30Pm～2:00Pm)

## 聖心会黙想の家

場 所：〒410-1126静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax.0559-92-2120

祈りの集い（問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで！）

午後のひととき、静かに過ごしてみませんか？

黙想会のお問い合わせ・お申し込みは：165-0033東京都中野区若宮3-9-4

若宮共同体 TEL.03-333

## マリアの御心会

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2

TLE.03-3351-0297

1. 聖書深読黙想会：毎月第二日曜日 対象：どなたでも
2. 詩編：毎月第一火曜日（第一火曜が祝祭日に当たった場合は第二火曜日）
3. ヨハネ福音書：五月で詩編が終わり、六月よりヨハネ福音書に入ります。同じ第一火曜日です。ご自由にご参加下さい。
4. 祈りの集い：毎月第三土曜日18:00~20:00.
5. 「来てみなさい」結婚、修道生活、独身生活を選定したい方、自分の人生について考えたい方

対象：20代、30代の未婚女性 参加費：500円（弁当持参）  
(10:00~16:30)ミサあり。

\* 毎月指導者が変わります。お問い合わせ下さい

7-3291

『心のいほり、内観瞑想センター』代表 藤原直達神父（大阪教区司祭）

〒572-0001 大阪府寝屋川成田東町3-27

\*TEL/FAX 072-802-5026 携帯 090-2401-9374

\*活動内容。定期的に各地で内観黙想の同行指導と講演。日本的な瞑想法と、自己発見、癒しの方法としての内観瞑想の普及。同行司祭は藤原神父です。

\*希望者は手紙かファックスで問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

4/3 (木) 2時~4/9 (土) 2時まで・横浜・戸塚

4/21 (月) 10時~4/26 (土) 4時まで・京都・竜安寺

5/3 (土) 10時~5/5 (月) 4時まで・兵庫・宝塚

5/11 (日) 2時~5/17 (土) 2時まで・兵庫・生野

5/25 (日) 2時 5/31 (土) 2時まで・未定・関東

# リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座

## 2003～2004年

このクラスでは、開かれた雰囲気の中で人生の問題に対する聖書の答えを聞くことを通して、キリスト教の教えを包括的に学び、信仰に基づいた生活態度の形成を目指します。(受講料は無料です。)

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場所 カトリック麹町聖イグナチオ教会 信徒会館3階アルペホール  
電話 03-3263-4584  
JR 中央線・総武線・地下鉄丸の内線・南北線 四谷駅徒歩1分

対象 キリストの教えを学び、信仰を自分自身の問題として考えたい方。  
どなたでも歓迎です。キリスト教の予備知識は必要ありません。

内容 1時間半の講話では、人間のあり方と現代的な問題意識から出発して、聖書のメッセージを徹底的に取り上げ、キリスト教を理論的にも実践的な意味からも説明します。また、黙想会などを通して祈りや信仰体験を深める機会もあります。1年間の講座を通してキリスト教の基本的な教えの全体をテーマ別に取り扱います。裏面のように1年間のプログラムになっていますが、中途参加をされても結構です。また、その日のテーマに興味を持たれた場合は、どうぞお出かけください。なお、このクラスは受洗を希望する方にとって、十分な準備となります。

### 講師のプロフィール

1938年 ドイツに生まれる  
1958年 イエズス会入会  
哲学・神学を学ぶ  
1967年 ミュンヘン大学卒業  
哲学博士、同年来日  
1971年 司祭叙階  
1989年 神学博士  
現在 上智大学文学部哲学科教授・上智大学中世思想研究所所長  
元放送大学客員教授



連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父  
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス  
電話 03-3238-5124 (直通)、5111 (伝言)、FAX 03-3238-5056

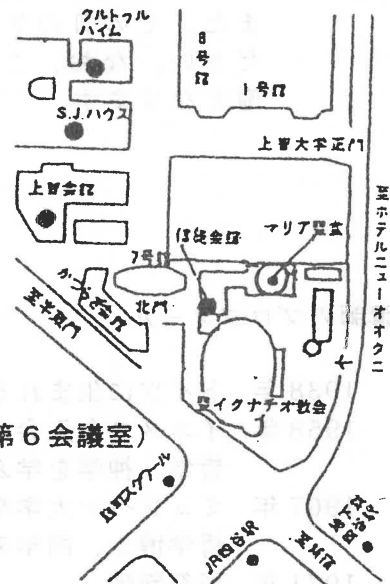
日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分  
 場所 聖イグナチオ教会 (四谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

各 回 の テ ー マ

- 4/ 4 信仰の道—人生の意味を問う
- 4/11 人生の道しるべ—聖書に信仰を求める理性
- 4/18 イスラエルの歴史と聖書—信仰の下敷き
- 4/19 ミサ (18時、上智会館3階)
- 4/25 聖書の人間像—人間の現状と使命
- 5/ 2 ○休み
- 5/ 9 旧約聖書の神体験—聞くことと見ること
- 5/16 神認識の道—理性と経験を通して
- 5/23 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
- 5/30 歴史と信仰—神と人間との出会い
- 6/ 6 新約聖書の神理解—主なる父
- 6/13 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
- 6/20 救い主の役割—人類の待望
- 6/21-22 ●黙想会
- 6/27 神の国—イエスの告げるメッセージ
- 7/ 4 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
- 7/11 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
- 7/18 イエスは誰か—イエスの自己理解
- 7/25 最後の晩餐—自分を与えるイエス
- 7/26 ミサ (14時、上智大学内 Kultourハイム 2階)
- 8/ 1 ○休み
- 8/ 8 イエスの受難—その史実と意図
- 8/15 ○休み
- 8/22 イエスの死—その救済的意味
- 8/29 イエスの復活—今に生きるイエス
- 9/ 5 聖書のイエス像—ヨハネの見たイエス
- 9/12 聖霊—神の愛に導かれる
- 9/13-15 ●黙想会
- 9/19 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる
- 9/26 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
- 10/ 3 教会の成立と意味—イエスを中心に集う
- 10/10 人間としてのイエス—新しい人間像の基礎付け
- 10/17 御子としてのイエス—イエスの神との関係
- 10/24 父と子と聖霊—神の生命に与る
- 10/31 信仰の決断—支えられて生きる
- 11/ 7 ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧
- 11/14 自己実現と神の意志—生き方の規範
- 11/21 人間の弱さ—罪とは何か
- 11/22-24 ●黙想会
- 11/28 恵みとゆるし—神の憐れみを受ける
- 12/ 5 愛の心—キリスト教の本質
- 12/12 隣人愛—他人のうちにイエスに出会う
- 12/19 希望を持つ勇氣—未来に向かって歩む
- 12/20 クリスマスのミサとパーティ (上智会館5階)
- 12/23 ミサ (14時、上智大学内 Kultourハイム 2階)
- 1/ 9 霊の動き—福音による生き方
- 1/16 聖書と教会—信仰の基盤になる言葉
- 1/23 秘跡と教会—生活を養う信仰
- 1/30 神の言葉—神との日常的な対話と黙想の仕方
- 2/ 6 結婚と独身—愛の道
- 2/13 信徒・司祭・修道者—誰もが召されている
- 2/20 仕事という人間の課題—社会に寄与して働く
- 2/27 人間の苦悩—悪とは何のためか
- 3/ 5 死—その実現と克服
- 3/12 人生の完成—神の内に生きる
- 3/13-14 ●黙想会
- 3/19 世界の聖化—多様な形で働きかける恵み
- 3/26 聖母マリア—信じる者の原型
- 3/27 感謝のミサ (14時、上智大学内 Kultourハイム 2階)



上智大学内 Kultourハイム 2階



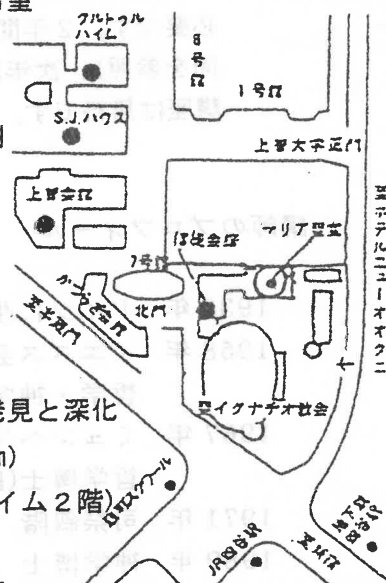
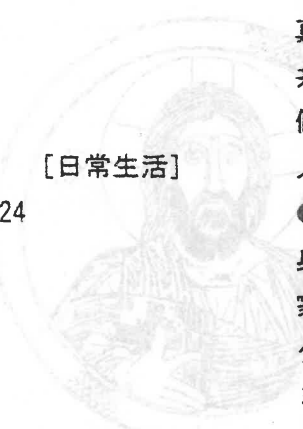
# リーゼンブーバー神父 キリスト教理解講座 2003～2004年

日時 第1・3火曜日 18時40分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

## 毎 回 の テ ー マ

- |          |           |                                      |
|----------|-----------|--------------------------------------|
| 4/ 1     | [倫理の基礎づけ] | 人格の尊厳——自立と自己実現                       |
| 4/15     |           | 神の似姿——自己超越と善なる神                      |
| 5/ 6     |           | 人生の目標——幸福と神への奉仕                      |
| 5/20     |           | 人間以外のものの意義——世界の使用と聖化                 |
| 6/ 3     |           | 創造と救い——イエスのまねび                       |
| 6/17     | [倫理的行為]   | 善さの規範——人間の本性と神の法                     |
| 6/21-22  |           | ●黙想会                                 |
| 7/ 1     |           | 人間的行為——自由と良心                         |
| 7/15     |           | 性格の形成——徳と感情                          |
| 7/26     |           | 感謝のミサ(2pm 上智大学内 Kultourハイム 2階)       |
| 7/29     |           | 人間の弱さ——誘惑と罪                          |
| 8/ 5     |           | お休み                                  |
| 8/19     |           | 魂の癒やし—恩恵・回心・ゆるし(上智大学内 Kultourハイム 2階) |
| 9/ 2     | [根本的態度]   | 人生を生きる基盤——信頼・信仰・希望                   |
| 9/13-15  |           | ●黙想会                                 |
| 9/16     |           | 課題の中心——愛による完徳                        |
| 10/ 7    |           | 真理と善の実現——判断・勇氣・節制                    |
| 10/21    |           | 共同体と社会の建設——正義と愛                      |
| 11/ 4    |           | 個人の道——聖霊の導きとカリスマ                     |
| 11/18    | [日常生活]    | 人間関係の意義——出会いと協力                      |
| 11/22-24 |           | ●黙想会                                 |
| 12/ 2    |           | 身体と生命——性と生命倫理                        |
| 12/16    |           | 家庭と独身生活——与えられた道の発見と深化                |
| 12/20    |           | クリスマスのミサとパーティ (4:30pm)               |
| 12/23    |           | ミサ(2pm 上智大学内 Kultourハイム 2階)          |
| 1/ 6     |           | 仕事と余暇——時間と能力の活性化                     |
| 1/20     |           | 困難と苦しみ——その受け入れと克服                    |
| 2/ 3     | [信仰生活]    | 教会生活への参加——典礼と社会への奉仕                  |
| 2/17     |           | 秘跡の恵み——ミサと告解                         |
| 3/ 2     |           | 祈りの本質と諸形態——神との個人的な関わり                |
| 3/13-14  |           | ●黙想会                                 |
| 3/16     |           | 深遠な神秘への接近——黙想の意味と仕方                  |
| 3/27     |           | 感謝のミサ(2pm 上智大学内 Kultourハイム 2階)       |



# リーゼンフーバー神父 キリスト教理解講座

2003～2004年

日時 毎月第1・第3火曜日 18時40分～20時30分

場所 カトリック麹町聖イグナチオ教会 信徒会館3階アルペホール  
電話 03-3263-4584

対象 JR中央線・総武線、地下鉄丸の内線・南北線 四ッ谷駅徒歩1分  
キリスト教についての基礎知識をもち、信仰をより深く考えたい・理解したい・  
生きたい方はどなたでも歓迎です。

内容 人生を支える信仰の力と豊かさを発見するために、キリスト教の内容を包括的かつ  
徹底的に知るよりも優れた道はないでしょう。本講座ではキリスト教のキー・ワー  
ドを手がかりとし、信仰の中心的な諸テーマを解明することを通して、その基盤と  
意味を探究し、理論的理解を深めるとともに信仰生活に指示を与え、充実した祈り  
への道も開きます。現代の問題意識を常に背景にしながら、聖書を元に、古代と中  
世の奥深いキリスト教思想を参考にして、信仰を人間論的・神学的・哲学的な観点  
から展開します。専門的な知識は前提とされませんが、入門講座程度の基礎知識は  
必要です。2年間の計画になっていますが、本年度は信仰の実践に重点を置き（裏  
面を参照）、次年度は信仰の内容を取り扱う予定です。途中参加・部分参加も可。  
講座は無料です。

## 講師のプロフィール

- 1938年 ドイツに生まれる
- 1958年 イエズス会入会  
哲学・神学を学ぶ
- 1967年 ミュンヘン大学卒業  
哲学博士(Ph.D.)、同年来日
- 1971年 司祭叙階
- 1989年 神学博士
- 現在 上智大学文学部哲学科教授・上智大学中世思想研究所所長  
元放送大学客員教授



連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父  
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス  
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056



## 黙想へのお誘い

メディテーション

# 「会社帰りの黙想」

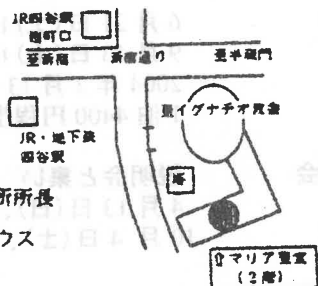
—あわただしい毎日に平安のオアシスを—

月2回、聖イグナチオ教会では黙想の場が開かれています。リーゼンフーバー神父により、黙想のさまざまなやりかたが紹介され、参加者一人ひとりが沈黙のうちに聖書の言葉を種にし、自己を探り、静かに考え、祈ることができます。始めと終わりにオルガン演奏もあります。信仰・宗派を問わず、毎日の忙しさから解放され、夕べのひととき心を深めたい方どなたでも歓迎です。随時参加・遅刻可、参加無料です。初めて黙想なさる方も、お気軽に訪れてみませんか。

日時：毎月第2・第4火曜日 18:45～20:00  
但し、8月12日休み、8月26日上智大学内культурハイム聖堂

場所：聖イグナチオ教会マリア聖堂（中聖堂）  
（東京都千代田区麹町6-5 TEL.03-3263-4584  
JR・地下鉄 四ッ谷駅から徒歩）

指導神父プロフィール  
クラウス・リーゼンフーバー (Klaus Riessenhuber) S.J.  
1938年生まれ、1967年来日  
イエズス会司祭、哲学・神学博士  
元放送大学客員教授(1991～1999年)  
現在、上智大学文学部哲学科教授・上智大学中世思想研究所所長  
連絡先：〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学S.J.ハウス  
TEL.03(3238)5124(直通) / 5111(伝言)



# リーゼンフーバー講座・集い案内

## 2003～2004年

キリスト教  
入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館アルペホール  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

キリスト教  
理解講座 毎月第1・第3火曜日 18時40分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館  
アルペホール。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。  
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探究します。

聖書研究会 木曜日 12時40分～13時25分 上智大学7号館316号研究室  
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。

坐禅会 ●月曜日 17時20分～20時10分  
●木曜日 18時～20時30分  
上智大学内 Kult-Ul-Haim 1階左の部屋 3回坐り、間に講話があります。  
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。

接心 ●4月28日(月)20時30分～5月5日(月)14時  
6月13日(金)20時30分～15日(日)14時 } 秋川神冥窟  
8月9日(土)20時30分～16日(土)14時 } 1泊2400円程度  
10月31日(金)20時30分～11月4日(火)14時 }  
2004年2月21日(土)8時30分～22日(日)16時 } 上石神井5400円  
●5月24日(土)13時～25日(日)16時  
8月1日(金)17時30分～7日(木)13時 } 宝塚市

ミサ 水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kult-Ul-Haim 1階右小聖堂  
どなたでも。(8月を除く)

黙想 ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時  
聖イグナチオ教会マリア聖堂 どなたでも。  
但し、8月には26日のみ(上智大学内 Kult-Ul-Haim 聖堂)。12月24日休み。  
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内 Kult-Ul-Haim 1階右小聖堂  
どなたでも。(8月を除く)

祈りの集い 下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室  
講話、黙想、ミサがあります。  
4月12日、5月10日、6月7日、7月5日、8月23日、9月20日、10月11日、  
11月15日、12月6日、2004年1月10日、2月14日、3月6日

黙想会 6月21日(土)10時～22日(日)15時、  
9月13日(土)10時～15日(月)15時、11月22日(土)10時～24日(月)15時、  
2004年3月13日(土)10時～14日(日)15時  
1泊4400円程度

アガペ会 説明会と集い 下記の日 13時30分～ 20代～40代の信者  
4月13日(日)、6月8日(日)：上智大学カトリックセンター  
10月4日(土)、2004年1月24日(土)：S.J.ハウス第5会議室

クリスマス会  
ミサ 12月20日(土)16時30分～ 上智会館5階第6会議室 要申し込み  
12月23日(火)14時～ 上智大学内 Kult-Ul-Haim 聖堂

問い合わせ・  
連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父 (上智大学文学部哲学科教授)  
〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス  
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056

# 黙想会のご案内

- 主よ、わたしの歩みを照らし導いてください -

日時： 4月27日(日)午後4時から  
4月29日(火)午後3時まで

指導： 星野正道師 (カルメル修道会)

対象： 30歳までの未婚女性信徒・求道者

会費： 10,000円

場所： 東京・上野毛カルメル修道院  
⇒ 裏面の地図をご覧ください。

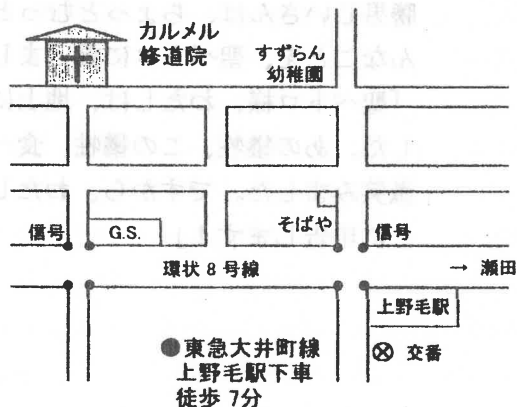
持参品： 聖書、筆記用具、洗面用具

申込先： 聖パウロ女子修道会 黙想会係 シスター菊池  
〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42  
TEL 03-3479-3941 FAX. 03-3479-5198  
E-mail: sanpaoline@pauline.or.jp

締切日： 4月20日(日)

## ■東京・上野毛カルメル修道院

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
TEL 03-5708-7355



☆おいのりどうわ☆

## 勝男じいさんと、天国の門前税務署

ついこのあいだ、勝男じいさんが、亡くなりました。

勝男じいさんは、死ぬとすぐに、天国の門の前まで走って行きました。門前には、小さな小屋があり、「聖ペトロ税務署」とペンキで書かれた看板がかかっています。聖ペトロが天国の門の鍵を持っているので、天国に入る前には、誰もが皆、ここを訪れなくてはならないのです。

中に入ると、聖ペトロが、純白のひげの中から微笑んで、

「愛する弟よ、よくきたね！」と迎え入れてくれました。

ペトロは、勝男じいさんに訊ねます。

「愛する弟よ、ここでは、あんたの人生の確定申告をしないとイケないんじやが、なにか申告するものはあるかね？」

勝男じいさんは、待ってましたとばかりに、聖ペトロに答えます。

「山のようにあります！わたしは、生きていた間、たくさんのことを成し遂げました。たくさん勉強して、一流の建築士になり、あの教会も、あの病院も、あのビルも、あの橋も、みーんなわたしが造ったんです。たくさんの人達に貢献し、評価されたんですよ。わたしは、人生の業績を全てここで申告します！」

聖ペトロは、あくびをして退屈そうに言いました。

「愛する弟よ、せっかくじやが、天国の税務署の申告用紙には、業績を書く欄はないんじやよ。もう一度出直しておいで。」

勝男じいさんは、ちょっとむっとしながらも、また出直して来て、今度は、こんなことを、聖ペトロに言いました。

「聖ペトロ様、わたしは、地上にいる間、たくさんイエス様のために苦しみました。あの犠牲、この犠牲、食べたいものも我慢しました。意地悪な人にも、微笑みました。ですから、わたしは、自分の人生のすべての苦しみと犠牲をここに申告します！」

聖ペトロは、首をかしげ、あごひげを撫でながら、困ったように答えます。  
「愛する弟よ、気持ちは分かるが、天国の申告用紙には、苦しみと犠牲を書く欄も、あんまりないんじゃないよ。もう一度、よく祈ってから出直しておいで。」

勝男じいさんは、困ってしまい、勧められたように、お祈りをしました。  
「主よ、わたしの人生の何を申告したら、天国へ入れて頂けるのですか？  
どうか教えてください・・・アーメン。」

すると、勝男じいさんの目の前に、今迄生きて来た人生が映し出されました。色々な出来事、出会った人達、成し遂げたこと、苦しいこと、などなど、その時々の勝男じいさんの表情が見えます。勝男じいさんは思いました。  
『あの時もあの時も、良いことをしている筈なのに、自分はあまり幸せそうな顔をしていないなあ。それに、ずいぶん忙しそうだ。わたしは、こころから喜んで自分のいのちを生きたのかな？』

すると、またまた、今までの人生の様々な一瞬が、目の前に現れました。顔を洗った時に飛び散った水の一滴一滴にふるえる光、小鳥の可愛い歌声、自分の心臓の生き生きした鼓動、空の青、木々の間からこぼれる月影。出会った人達のぬくもり、思いやり、微笑み、赦し、そしてたくさん祈り・・・。  
『こんなに美しい世界で、こんなに愛されて生きていたとは、知らなかった。』

勝男じいさんは少し悲しくなりました。  
『神さまは、わたしが神の幸せに生きて、幸せの知らせ（福音）を伝えることを望まれた筈なのに、わたしは、色々な良いことはしても、幸せと喜びのうちに生きていなかった。神様から頂いたやさしさと美しさを、毎日気づいて生きて来なかった。どんなに業績や苦しみや犠牲を捧げても、幸せのうちに背負わなかった十字架が、人に福音を知らせることなど出来るだろうか？わたしは、神の御心に添わない生き方をしたのかもしれない。わたしの人生は、全部まちがだった・・・。』

勝男じいさんは、しょんぼりと、天国の門前まで、聖ペトロをまた訪ねました。税務署の小さな木の机の上には、木のお皿にのせられた美味しそうなパンが一切れと、そして、木のさかずきに入ったルビー色のぶどう酒があります。

聖ペトロはにこにこして言いました。

「愛する弟よ、ちょっと元気がないようじゃな。天国の門前にあんたが来てるって、さっきイエス様に言ったんじゃが、そしたら、あんたに食事をさせるようにと、これを届けて下さったんじゃよ。さあ、パンを食べて、ぶどう酒をお飲み！ずっと気分がよくなるよ。ちゃんと食前の祈りをするんじゃよ。」

勝男じいさんは、涙をこぼしながら、パンとぶどう酒を前に、お祈りしました。  
「慈しみ深いイエス様、わたしは、自分の人生が、あなたの優しさと恵みと美しさにどれ程満ちていたのが、今、ようやく分かりました。わたしの成し遂げたことは、全てあなたのなされたことでした。だから何も申告するものはありません。でも、生きている間には気づかなかった、人生で頂いた全ての幸せを、ここに感謝を込めて申告させてください。そして、今迄ずっと、それに気づかなかったこと、本当に、本当に、ごめんなさい・・・」  
「アーメン」と聖ペトロが言いました。

勝男じいさんは、イエス様が用意してくれたパンとぶどう酒を美味しく頂きました。心がほかっと温かくなったかと思うと、勝男じいさんは、いつのまにか、小さな男の子に変わっていました。

「さあ、坊や、おいで！」  
そう言ってウインクをした聖ペトロは、小さな子どもになった勝男じいさんの手を優しく引いて、天国の真珠色の門の前に連れて行ってくれました。そして、腰からぶら下げていた大きな鍵で、門を開けました。

門が開いた途端、不思議な美しい音楽が聞えてきて、中からは、小さな可愛いイエス様が、笑い顔で、両手を広げて駆け出して来ました。勝男をぎゅっと抱きしめてから、両手を握って、小さなイエス様は、言います。

「来てくれて嬉しいよ！ぼく、ずっと待ってたんだよ！ずっといつも祈ってたんだよ！僕の想いが、やっと君に通じたんだね。君の申告した幸せは、聖霊のペンで記録されて、天国の財産になったんだ。地上の御国の完成のために使われるのさ。さあ、一緒に、お祈りして、楽しく遊ぼうね！ずっと一緒だよ！」

小さな坊やになった勝男じいさんは、小さなイエス様と両手を取りあって、飛びっきりの笑顔で、踊り、歌いながら、お祈りして遊びました。

♪神の御国が、地上に来ますように♪                      おはなし： まるやまちかこ

上智大学中世思想研究所編訳・監修

『中世思想原典集成別巻 中世思想史 | 総索引』

1992年から刊行を開始し、今年9月に完結したシリーズの最終配本。「中世思想史」(村井則夫訳)は、全巻の総監修者であるK・リーゼンフーバー上智大学中世思想研究所長による通史で、本シリーズ各巻に連載された葉を改訂・収録したもの。二世紀の古代キリスト教教父から中世末期14世紀に至るまでの中世思想の流れが、当時の社会的・教会史的背景と知的・霊的状况をふまえ、哲学・神学・歴史・文学の各領域を横断して詳細にたどられる。本集成を読むための最良の導きといえよう。全6部のうちイスラーム・ユダヤ思想にも一つの部が割かれ、その西洋世界との密接な関わりが示される。

「総索引」は、シリーズ全20巻に収録された335著作の巻ごとの総目次と、著者別の収録著作一覧、訳者・監修者一覧に加え、各巻巻末の索引をまとめた総索引(聖句引照索引、人名・固有名索引、邦訳書名一覧)から成る。聖句9300項目、人名・固有名6000項目、邦訳書名700項目という数字からも、本集成の「中世百科全書」的性格が窺われる。邦訳のある700著作のうち、西洋古典が約150、残る中世の著作550のうち6割が本集成で初めて訳されたことになる。総索引は、人名に欧文原綴りと生没年・在位年も示されているので、中世人名事典として使うこともできる。

中世を通して、聖書のどの個所がいかに読まれ、解釈されたか。キケロ、セネカ、ホラティウス、ウェルギリウスなど、古典古代の著作がいかに受容されたか。あるいは中世の著作が相互にどう影響を及ぼし合ったかを、この索引を頼りにたどることが可能となった。二世紀から一七世紀までのヨーロッパの主要著作全体について、このような検索のできるツールは、史上初めてのものである。

発行=平凡社(電話 03-38180847) B6版 688頁 8000円(税別)

I S B N 4-582-73431-0

## 辞世三首

ひたすらに待ち望みたる天国に

我は召されて一人旅立つ

子や孫と別るは悲しさはあれど

いざ旅立たん光の国へ

身も心も罪を重ねし我なれど

神よ赦して今召し給へ

マリア安達留子遺稿集

萩の歌より





上野毛、宇治、大分

カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

聖テレジア修道院(黙想)は、カルメルの霊性を体験し深めたい方のためのものです。黙想会、研修会、練成会などに御利用下さい。個人でも団体でも御利用頂けますが、必ず事前に御連絡の上、お申し込み下さい。なお、詳しい御問い合わせは、下記へお願いいたします。

※☎158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

☎ : 03-5706-7355

FAX : 03-3704-1764

東急大井町線：「<sup>かみのげ</sup>上野毛駅」下車徒歩7分

※☎611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12

☎ : 0774-32-7016

FAX : 0774-32-7457

京都駅よりJR奈良線：「<sup>ろくじぞう</sup>六地藏駅」下車徒歩15分

京阪バス：六地藏の町並バス停より御蔵山行きに乗り

「西住宅バス停」下車徒歩5分

※☎870-1152

大分市上宗方1800-3

☎・FAX共：0975-41-4012

大分駅～バスで18分、大分川を渡って<sup>あきほし</sup>明礪橋を右折

男子跣足カルメル修道会

## お 願 い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨  
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画  
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて  
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送りください。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいします。

- 
- ・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は 佐々木茂子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

☎045-575-5722

## あ と が き

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一口一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってきています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことがらを通してイエス様が働きかけ、共に生きてくださいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター

星 野 正 道